

トピックス

●農業事業参入

経験豊かな人材がさらに活躍できる職場環境の整備が重要だと考え、新規事業を検討してきました。

その結果、当社の中瀬製錬所がある兵庫県養父市は「中山間農業改革特区」として、企業が農業参入しやすい環境であることやSDGsへの貢献の観点から農業事業への参入を決定し、2024年7月1日より「minorityファームやぶ」を立ち上げ、施設面積4,152㎡のアイメック農法による高糖度トマト養液ハウス栽培を開始しました。

9月末より収穫を行い、「うふふの実」のブランドで但馬地域の道の駅などで販売を開始しております。



「minorityファームやぶ」と高糖度トマト

●つくば工場

増産に対応した品質管理・評価体制の確立

子会社の日本アトマイズ加工株式会社つくば工場（茨城県牛久市）では、電子部品向け鉄系合金粉の生産に対応した品質管理体制を整備するため、金属粉等に含まれる各元素の含有量を測定するプラズマ発光分析装置の増設、製品の酸化に影響する含有水分量を測定する水分測定装置を導入しました。今後は開発品の評価体制を充実するための装置導入を検討しております。

当工場では、最新の電子部品の成長トレンドに即した生産体制に加え、品質管理・評価体制の強化に取り組んでおります。



つくば工場 品質保証部内 全景

会社概要 (2024年9月30日現在)

社名	日本精鉱株式会社 NIHON SEIKO CO., LTD.
設立	1935年6月11日
本社所在地	東京都新宿区下宮比町3番2号 電話03-3235-0021 (代表)
資本金	10億18百万円
事業内容	各種アンチモン製品等及び 各種金属粉末等の製造・販売
証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
会計監査人	新宿監査法人
従業員数	連結 256名 単体 87名
連結子会社	日本アトマイズ加工株式会社 千葉県野田市 (各種金属粉末等の製造・販売) 日錫精礦(上海)商貿有限公司 中国上海市 (各種アンチモン製品等の販売)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-232-711 (フリーダイヤル)
株式に関するお手続きについて(住所変更・買取請求等)	1. 証券会社等の口座をご利用の場合 お取引の証券会社等にお問い合わせください。 2. 証券会社等の口座をご利用でない場合(特別口座) 三菱UFJ信託銀行(電話0120-232-711)までお問い合わせください。
公告方法	電子公告< https://www.nihonseiko.co.jp > (ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。)



新発田市三王子岳

第130期 中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日

日本精鉱株式会社

証券コード 5729

株主の皆様へ

日本精鉱グループは
グループ力を発揮し、
持続可能な事業の
成長に向け、
チャレンジします



代表取締役社長
植田 憲高

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第130期上半期（2024年4月1日～2024年9月30日）においては、経済活動の正常化に向けた取り組みが進み、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復の動きが続いています。

一方、世界的な物価上昇と欧米の金融引き締めによる金利の高止まり、原材料やエネルギー価格の高止まりと円安に伴う国内物価の上昇が消費に影響を及ぼしており、加えて中国経済の先行き懸念、ウクライナや中東の情勢など地政学リスクの高まりにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。当社グループが関連する産業においては、自動車産業をはじめ製造業全般の生産は緩やかに回復しております。電子部品産業においても、スマートフォン市場などが回復し、生成AIの普及や自動車エレクトロニクス市場の拡大が需要を押し上げております。

このような状況のもと、当社グループは本年度を最終年度とした「グループ力を発揮し、持続可能な事業の成長に向けて、チャレンジし続けるChallenge for Sustainable Growth」をスローガンとする中期経営計画（2022～2024年度）に基づき、事業活動に取り組んでおります。

こうした取り組みの結果、当期上半期の連結売上高は前年同期比37.7%増収の10,859百万円、営業利益は同344.5%増益の924百万円、経常利益は同276.7%増益の882百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は同274.5%増益の604百万円となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、本年5月14日に開示いたしました配当予想より15円増配して、1株当たり60円とさせていただきます。

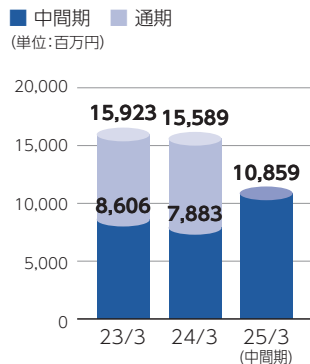
株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2024年12月

連結財務ハイライト

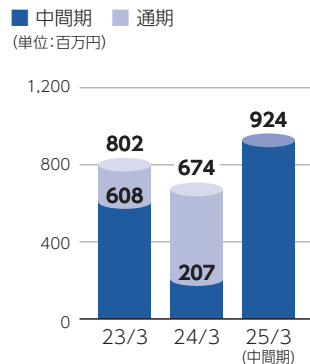
● 売上高

10,859百万円



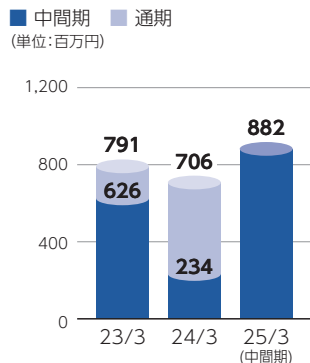
● 営業利益

924百万円



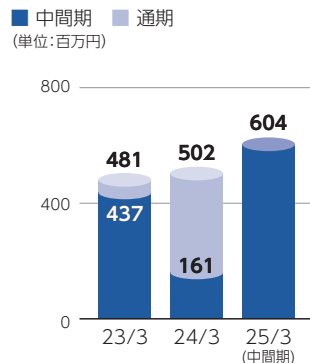
● 経常利益

882百万円



● 親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益

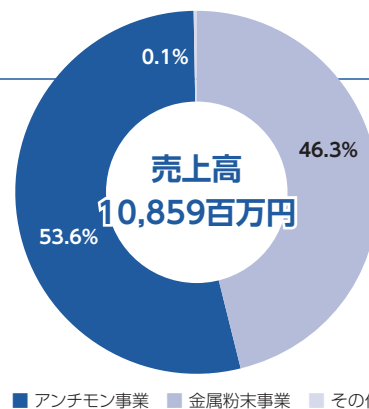
604百万円



セグメント別概況(連結)

● アンチモン事業

プラスチック材料の難燃剤が主用途の三酸化アンチモンは、火災防止のために広範な産業分野で使用されます。自動車業界をはじめ製造業全般の生産は緩やかに回復しており、販売数量は前年同期比4.2%増加の2,448トンとなりました。売上高は前年同期比36.0%増収の5,819百万円、セグメント利益は同298.1%増益の543百万円となりました。



● 金属粉末事業

電子部品向け金属粉末については、需要が低迷していたスマートフォンやパソコン市場が回復し販売数量が増加しました。粉末冶金向けにおいても、自動車部品向けが堅調に推移しました。売上高は、販売数量の増加等により、前年同期比40.0%増収の5,025百万円、セグメント利益は受注回復による操業度上昇等から前年同期比614.1%増益の362百万円となりました。

連結財務諸表

● 中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	当中間連結会計期間 (2024.9.30)	前連結会計年度 (2024.3.31)
資産の部		
流動資産	11,288,685	9,706,134
固定資産	6,000,352	6,168,288
(有形固定資産)	5,401,672	5,567,040
(無形固定資産)	144,130	154,415
(投資その他の資産)	454,549	446,832
資産合計	17,289,038	15,874,422
負債の部		
流動負債	5,315,872	4,230,169
固定負債	1,749,229	1,943,083
負債合計	7,065,102	6,173,253
純資産の部		
株主資本	10,157,895	9,637,343
その他の包括利益累計額	66,040	63,826
純資産合計	10,223,936	9,701,169
負債純資産合計	17,289,038	15,874,422

● 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	当中間連結会計期間 (2024.4.1～2024.9.30)	前中間連結会計期間 (2023.4.1～2023.9.30)
売上高	10,859,405	7,883,937
売上総利益	1,534,052	758,858
営業利益	924,146	207,919
経常利益	882,373	234,224
税金等調整前中間純利益	882,977	222,464
中間純利益	604,831	161,505
親会社株主に帰属する中間純利益	604,831	161,505